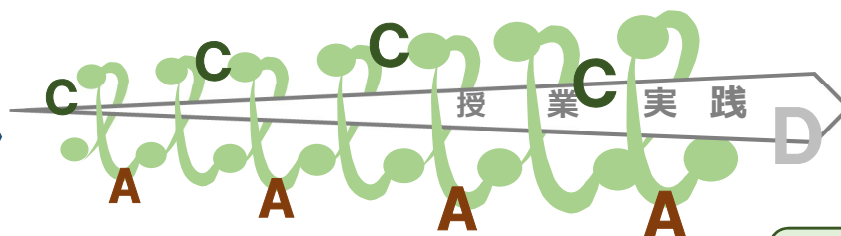


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

児童の
つぶやきや
様相から Check !



C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□Check 5

・「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができたか

「今日の学習は、日常生活の～なところに使われていたのか！」

□Check 4

・事実（結果）をもとに、考察することができたか

「私は、～（事実）という結果から、…（考え）と考えました。」

「私は、…（考え）と考えました。理由は、～（事実）だからです。」

「本当に、この結果でいいのかな？…」

□Check 3

・自分の考えを、より妥当なものにすることができたか

□Check 2

・見通しをもって観察、実験などを行うことができたか

「～の観察・実験を行えば、問題（課題）を解決できそうだ！」

「あれ？（おかしいな？）、どうしてだろう？
調べてみたいな！」

□Check 1

・自然の事物・現象から問題を見いだすことができたか

A 授業改善のポイント

☞Check 1

自然の事物・現象から問題を見いだすことができるようにするためには

・事象提示では、既習事項で解決できる事象と、既習事項では解決できない事象を提示したり、2つの事象を提示してその比較をさせたりすることで、問題を見いださせていきましょう。

☞Check 2

見通しをもって観察、実験などを行うことができるようにするためには

・自然の事物・現象についての問題を明確にもち、変化させたり制御したりすべき変数は何か、どうすれば適切なデータが得られるかなど、解決に向けた方法をもたせるようにしましょう。

☞Check 3

自分の考えをより妥当なものにすることができるようにするためには

・児童が、自分の考えを「理由」や「根拠」をもとに主張したり、他者の考えなどからその妥当性や信頼性を吟味したりして、自分の考えを見直し、必要に応じて改善できる時間や手立てを講じていきましょう。

☞Check 4

事実（結果）をもとに、考察することができるようになるためには

・自分のノート（プリント）に記述できる場や時間を保証しましょう。また、観察、実験の結果を図や表、グラフ等に整理し、それを基に結果について考察し、考えと考察の根拠となる事実を書いたり話したりできるようにしていきましょう。

☞Check 5

「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができるようになるためには

・本時の授業のまとめの場面で、学習内容がどのように日常生活とつながっているのかを考えさせることを意図した終末の事象提示を工夫しましょう。
・日常生活や社会に適用するための具体物を提示したり、評価実験を演示したりして、科学を学ぶことの意義や有用性を実感させていきましょう。



ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。